

香川大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程
学生の確保の見通し等を記載した書類

【目次】

I	学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	2
	1. 看護系博士後期課程定員数の動向	
	2. 本学修了生への博士後期課程進学状況調査	
	3. 本学修士課程修了生および在学学生への進学意向調査	
	4. 香川県内における看護教員の学位取得状況	
	5. 修学支援制度等	
	6. 学生確保への取り組み	
II	人材の需要の動向など社会の要請	10
	1. 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(概要)	
	2. 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	

I 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

1. 看護系博士後期課程定員数の動向

昭和 39(1964)年に東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻として定員 25 名で博士後期課程が設置され、その後、国立大学の看護系における博士後期課程は設置され続けているが、その定員数は減少傾向にある。中四国においては、平成 10(1998)年に広島大学大学院医系科学研究科保健学専攻(保健科学プログラム・薬科学プログラム・生命医療科学プログラム)が定員 15 名で設置されたが、近年では平成 28(2016)年島根大学大学院医学系研究科看護学専攻は定員 2 名、令和 2(2020)年愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻は定員 2 名で設置され、中四国における国公立大学の看護系博士後期課程の定員は 2 名程度である(図1、2)。

図1 国立大学看護系博士後期課程設置定員の動向

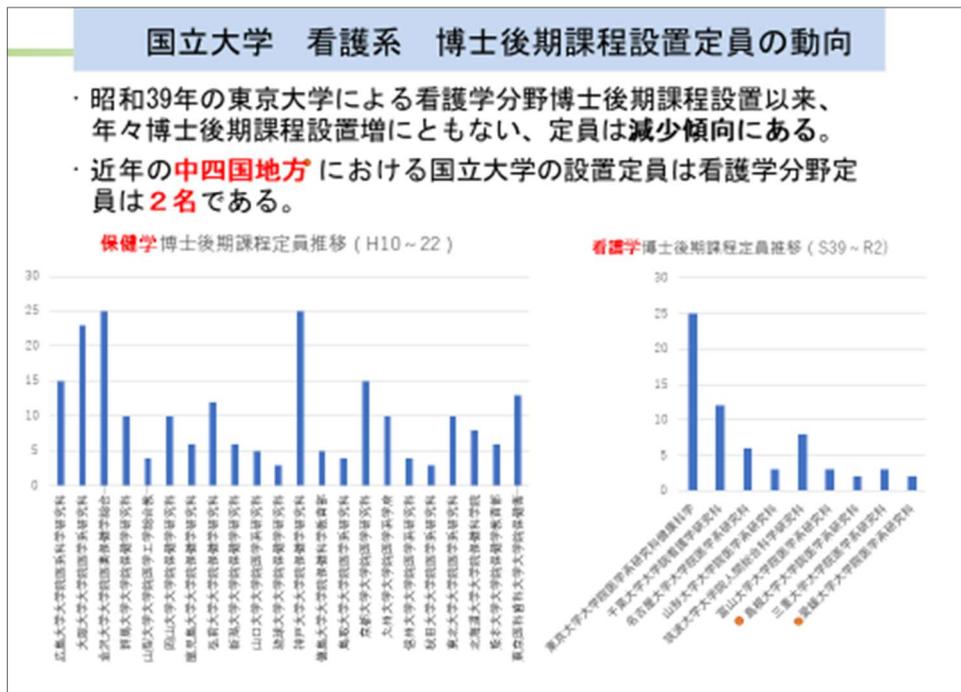


図2 中国・四国地方の国公立大学看護系博士後期課程定員数

中国・四国地方の国公立大学 看護系博士後期課程定員数	
島根大学	2
愛媛大学	2
島根県立大学	2
香川県立保健医療大学	2
高知県立大学	6*

* 共同災害看護学専攻含む

2. 本学修了生への博士後期課程進学状況調査

令和元(2019)年12月、本学修士課程修了者112名を対象に博士後期課程への進学希望に関する状況把握(基本的属性、進学希望の有無、進学希望の動機・理由・時期等)を目的に調査を行った。資料1-1・資料1-2は依頼書と調査票の写しである。回答者47名のうち、16名(34%)が、既に他機関の博士後期課程に進学していた(県内4名、県外12名)。このうち県内機関への進学者4名は、香川大学大学院医学系研究科(医学博士)への進学であった。

一方、県外博士後期課程の進学先は、関東1名、東海1名、関西4名、中国3名、四国3名の計12名であった(図3)。これら他県への流出者が香川県にとどまれば、香川県内で就業を続けながら、時間的、経済的にゆとりをもって、修学を続けることができる。これら少なくとも16名の博士後期課程進学者は過去20年間の実績であり、本学博士後期課程が開設されれば、毎年、2名程度の入学者の確保を期待できる。

図3 本学修士課程修了者の博士後期課程進学状況の内訳

2019年12月実施

本学修士課程修了者の博士後期課程進学状況の内訳

博士後期課程修了			博士後期課程在籍者		
大学名	分野	人数	大学名	分野	人数
雷川大学大学院医学研究科	医学	3	雷川大学大学院医学研究科	医学	1
広島大学大学院	医歯薬保健学	1	広島大学大学院	看護学	1
徳島大学大学院	保健学	1	岡山大学大学院	保健学	1
聖隷加藤大学大学院	老年看護学	1	徳島大学大学院	保健学	2
人間環境大学大学院	発達看護学	1	大阪医科大学大学院	看護学	1
奈良女子大学大学院	学術	1	立命館大学大学院	学術	1
兵庫教育大学連合大学院	学術	1			
計		9	計		7

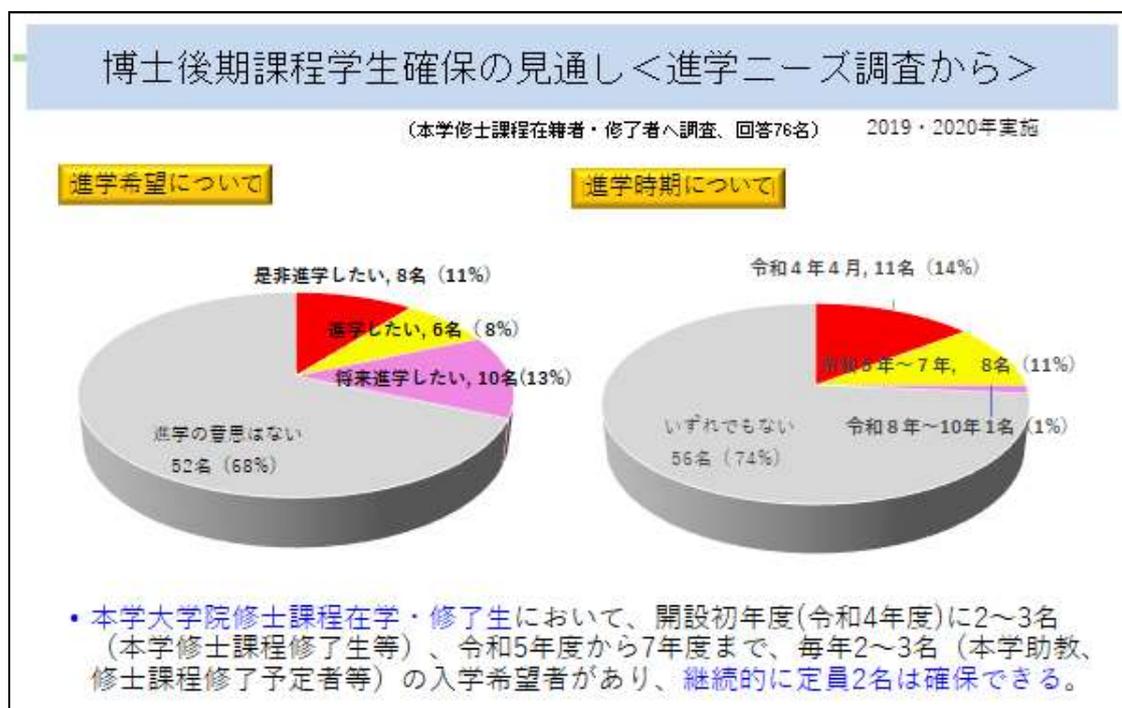
(修了者112名へ配布、回答47名)

3. 本学修士課程修了生および在学生への進学意向調査

令和元(2019)年12月に加え、令和2(2020)年6月に本学修士課程在籍者9名に博士後期課程進学の意向調査を実施した。この調査では、令和元(2019)年度版の依頼書(資料1-1)と調査票(資料1-2)の写しを使用した。令和元年調査修了生112名分と令和2年の9名分を合わせた計121名中、76名から回答を得ることができた。「是非進学したい」8名(11%)、「進学したい」6名(8%)、「将来進学したい」10名(13%)であった。また進学時期については「令和4(2022)年4月」11名(14%)、「令和5~7(2023~2025)年」8名(11%)、「令和8~10(2024~2026)年」1名(1%)であった(図4)。また「ぜひ進学したい」8名(11%)の職業内訳をみると、無職、病院スタッフ、修士修了予定者、看護系教員(本学助教)であり、博士後期課程へ進学する可能性の高い修士修了予定者と看護系教員は、それぞれ2名と3名であった。

この調査結果から、本学修了生と在籍者のうち、開設初年度[令和4(2022)年度]に2~3名(本学修士課程修了生等)、令和5~7(2023~2025)年度までに毎年2~3名(博士後期課程未修了の本学助教、修士課程修了予定者等)の入学希望者が予測され、令和4(2022)年開設時以降、継続的に定員2名を確保できる見通しである。さらに、本意向調査の対象としなかった他大学の修士課程修了生・在学生からの進学も期待できる。

図4 博士課程学生確保の見通し<ニーズ調査から>



4. 香川県内における看護教員の学位取得状況

令和元(2019)年10月時点の香川県内における看護教員(120名)の学位取得状況は、最終学位が修士である教員は、A大学8名(7%)、B大学14名(12%)、C専門学校3名(3%)、D専門学校4名(3%)、E専門学校6名(5%)、F専門学校5名(4%)の計40名(33%)で、そのほか修士在学中がA大学2名(2%)、E専門学校1名(0.8%)、F専門学校2名(2%)計5名であることから、総数45名(38%)が博士後期課程への進学の可能性があるといえる。特に、A大学とB大学で修士の学位をもつ教員22名は、大学教員として博士の学位取得が期待されることから、令和4(2022)年度以降、県内大学で博士後期課程進学を希望する可能性が高い(図5)。これらより、博士の学位を未取得の大学・専門学校の看護教員へのリクルートを行えば、本学博士後期課程の定員2名の継続的な確保は可能と考える。

図5 香川県内における看護教員の学位取得状況

香川大学					
香川県内における看護教員の学位取得状況					
情報提供のあった学校のみ 2019年10月現在					
学校	修士 在学中	最終学位 修士	博士後期 在学中	学位博士	全教員数
A大学	2	8	2	15	26
B大学	0	14	不明	15	29
C専門学校	0	3	0	0	8
D専門学校	0	4	1	0	14
E専門学校	1	6	0	0	25
F専門学校	2	5	0	0	18
合計	5	40	3	30	120

複数回答

22名の教員が博士後期課程に進学する可能性がある

5. 修学支援制度等

1) 学生納付金設定の考え方

納付金は、「入学料」と「授業料」の区分を設ける。納付金額は、現行の本学看護学専攻修士課程の金額を勘案し、以下のように定める。

区 分	納 付 金 額
入 学 料	282,000 円
授 業 料	267,900 円(半期分)
	535,800 円(年 額)

2) 長期履修制度

これまでの本学看護学専攻修士課程入学者 230 名の就業状況は、有職者が 209 名であるのに対し、無職者が 21 名であり、殆どが就業を継続しながら修士課程の学業を続ける学生であった。博士後期課程でも学生の多くが教育研究職等の有職者であることが想定され、入学後も就業しつつ学業を継続することが推測できる。

本学では、社会人入学者の就業を支援するため、大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例に準じ、長期履修制度を導入する。申請により長期履修制度の利用許可を得た学生は、修業年限を 4 年に延長することができる。

長期履修制度を利用する学生は、通常の年限(3年)の授業料を4年間で分割した額※を毎年納入する。

※(通常の年額授業料×3年)÷4年=401,850円

3) 奨学金制度

学業成績、人物ともに優れ、経済的理由によって就学困難な学生には、選考のうえ、日本学生支援機構奨学金が貸与される。

4) 本学修士課程修了者の入学料および検定料の免除制度

本学大学院の修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程を修了し、引き続き本学大学院の博士課程又は博士後期課程に進学する場合は、入学料及び検定料を徴収しないものとする。(香川大学学生等納付金規程 第15条)

5) 成績優秀者褒賞制度

本学では、卒業・修了時に成績優秀者の表彰を行う。博士課程では、医学系研究科医学専攻博士課程同様、成績優秀者1名を「学長賞」候補者としての検討を行う。なお、候補者となるものは、「休学」「留年」がないものをいう。候補者選考方法は、別に定める。

6. 学生確保への取り組み

1) 進学説明会

香川大学大学院の進学説明会は、各部局で開催されており、医学系研究科では、専攻毎に開催されている。医学系研究科看護学専攻では、従来、四国厚生局登録の関係機関への周知を行ってきた経緯から、これらの周知方法を継続する予定である。

これまで看護学専攻修士課程の進学説明会は、毎年1から2回程度、学内および施設訪問を実施してきた。特に医学部附属病院では、看護管理者・病棟管理者説明会および各種研修コースでの説明会や、看護師一人一人に対する個別相談会を実施し、入学者の多数を附属病院から受入れることができた。訪問による進学説明会は、看護協会の総会や研修会等、保健所、訪問看護ステーションなどで実施し、また看護学専攻の修了生が所属する病院機関においても実施した。併せて県内看護専門学校および看護師養成所教員への訪問説明会を実施した。

博士後期課程のリクルートについては、4年制看護師養成校2校の教員、私立大学教員などへの訪問説明会も実施する予定である。

2) 関係機関への募集要項及び学生募集リーフレットの配布

関係機関への募集要項の配付は、訪問と郵送により実施している。看護学専攻開設から20年間は、訪問説明会を中心に実施したが、その後は郵送を中心としている。送付先は毎年5月1日付けの四国厚生支局ホームページから情報を取得し、300床以上の病院11件、300床以下の病院から抜粋した卒業生・修了生などに関連のある病院23件、徳島県の300床以上の病院2件、香川県内高等学校、専門学校、大学校7件に送付している。

県内専門学校とは外部評価や研究指導などの交流を通じて緊密な関係を維持している。本学退職教員や本学教員が参加して本学科内で実施している糖尿病看護の会「Qの会」でもリクルート情報の提供を行っており、一定の入学者の受入れ実績に繋がっている。

香川大学医学部附属病院看護部に対しては、幹部看護師や中堅看護師への説明会を実施し、さらに病棟単位でリクルート情報の提供などを行っている。

令和元(2019)年度に看護学専攻修士課程に助産学コースを開設した際には、中四国の看護系大学へチラシの送付、ホームページの特設、さらに日本看護協会香川県支部総会において募集要項の配付を実施した。さらに、香川県看護協会各支部での研修会や職能別研修会においてもリクルート情報の提供を行い、大学院入学希望者の裾野拡大を図っている。

博士後期課程開設初年度には、特に正確な情報提供を要することから、香川県看護協会総会での資料配付、香川県看護協会の協力を得て所属機関へ一斉メール入試情報を送付する。中四国、近畿圏には、看護系大学への情報提供を行う。さらに、県外者のために個別相談会をオンラインで実施する。

3) 学部学生へのキャリア教育の実施

令和2(2020)年度カリキュム改正にあたり、キャリア教育の導入を図った。概要は、次の通りである。

1年次生を対象とする新入生セミナーでは、卒業生や大学院生との交流の場を設け、生涯教育の場として大学院の活用を提案し、入学時から看護職としての将来のビジョンが持てるような教育を行っている。また、学部1年次生の授業科目「看護学概論」において「看護師の職制入門」、「国際看護への招き」を実施し、キャリア形成の導入を図っている。

2 年次生では、医学部附属病院看護部による奨学金の説明会に併せて、「先輩看護師の経験を聞く」や助産師、保健師、養護教諭の経験を聞く機会を設けている。

3 年次生では、クラスアワーで「教育研究職への道」として、看護教員が自らの臨床看護から看護教育研究職へ、あるいは保健師臨床から看護教育研究職へのキャリアステップを紹介している。

4 年次生では、夏季休暇などを活用して、病院見学や大学院説明会、ボランティア活動などを通して、様々なキャリアを学ぶ機会を確保している。令和 2(2020)年度に実施した高校生向けの Web オープンキャンパスでは、博士後期課程開設を見据えて「看護学教育研究者への道」と題して講演を行った。

4) 教員の研究内容の公開

教員の研究内容の公開については、令和元(2019)年度から新たに大学ホームページの研究者総覧と科学技術振興機構が運営する researchmap との提携が実施されており、全ての常勤教員が Web 上で研究成果等を公表している。

また、指導教員の研究テーマおよび各専門領域の研究テーマは、大学院説明会用パンフレットに掲載している(資料 2)。

5) 外国人留学生

既に、修士課程の留学生として中華人民共和国から 1 名、ミャンマーから 1 名が修士の学位を取得し、現在 2 人目の中華人民共和国からの学生が在籍している。今後、両国の他、カンボジア健康科学大学等の学術交流協定校から留学生が入学する可能性があり、近い将来、これらの留学生が博士後期課程に進学することが期待される。

6) 修士課程の教育・研究の地域への発信

看護学専攻では、平成 25(2013)年度に在宅看護学分野において、全国訪問看護事業協会事務局長の招聘による「訪問看護研究者養成の促進を図る」と題した公開授業、平成 26(2014)年度にはチェンマイ大学教員やオーストラリア人看護研究者等の招聘による国際シンポジウム、ネイティブによる英語論文作成のための公開セミナー、ナイチンゲール記章受章者によるアフリカでの国際看護実践活動に関する公開セミナーなどを実施し、修士課程における国際的研究活動の発信により、大学院研究への関心を高めた。

Ⅱ 人材の需要の動向など社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

健康日本 21 において、健康寿命の延伸が求められている。こうした中、香川県は「健康長寿かがわの実現」を目標に掲げ、第七次香川県保健医療計画として、地域において切れ目のない医療の提供を実現することにより、良質かつ適切な医療を持続可能な形で効率的に提供する体制を確保することを基本理念として挙げ、質の高い看護職の養成と安定的な看護職の確保を課題としている。（第 7 次保健医療計画）（資料 3 学生確保(資料)－10～12p）

香川県においては、急速な少子高齢化や社会構造の多様化・複雑化が進む中で、地域で生活しながら個人や集団の健康力を高めることによって、病気の重篤化を予防し、要介護認定者数の増加を低減させるため、次世代の技術を活用した看護実践の取り組みが求められている。そして、変革期にある人口動態を見据え、根本的に個人と集団の健康力を高め、組織や社会の活性化を図るシステムづくりを行っていく必要がある。また、あらゆるライフステージ及び健康状態の人々を対象として、看護専門職だけでなく住民やその地域と共に、すべての人々の安全と安心をもたらす地域包括ケアシステム等のしくみの有効な稼働を仕掛けていくことが必要である。

このような社会的な人材の要請に応えるため、本博士後期課程において養成すべき人材は、健康長寿の実現に向けて保健・医療・福祉の全般を統括し、健康 QOL の向上のための看護を新しく創造・開発し、異分野融合の学際的な視点から組織や社会の活性化を図るシステム作りに貢献できる者とした。

四国地方には 4 年制看護大学が 11 校あり、内、10 校が修士課程を有している。しかし、博士後期課程を設置している大学は 5 校（徳島大学、徳島文理大学、高知県立大学、愛媛大学、香川保健医療大学）のみである。研究能力と教育力を備えた質の高い看護職者を養成するためには、博士後期課程が必要と考えられるが、博士後期課程への進学ニーズに十分に応じるための教育体制が整っているとは言い難い。

香川県において、看護師養成を行っている大学は、香川大学と香川県立保健医療大学の 2 大学のみで、両大学とも修士課程を有し、毎年 21 名（入学定員）の修士課程（看護学）修了生を社会に輩出している。令和元（2019）年度に、香川県立保健医療大学に初めて博士後期課程が設置されたが、定員は 2 名と少ない。進学希望者は、県外の大学に進学するか、あるいは医学専攻等の異なる分野に進むことが多かった。本学の修士課程修了生の約 9 割以上（資料

4)が社会人学生であり、進学する場合は、就業との両立が必須である。それゆえ、県内 2 つ目となる博士後期課程の設置は、進学を希望する看護職者が切望するところであり、県内唯一の国立大学である本学の使命と言える。

2. 上記 1 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 香川県において必要とされている根拠

第 7 次香川県保健医療計画の基本目標である「健康長寿かがわの実現」として、「健康長寿」を挙げている(資料 5)。この医療計画の中において、看護職の資質の向上と看護職の確保が課題として挙げられており(資料 3)、本博士後期課程の設置は香川県のニーズに合致する。また、香川県知事及び香川県看護協会会長から、本学へ看護学専攻博士課程設置に関する要望書が提出されている(資料 6-1, 6-2)

2) 四国地方の大学・大学院設置状況

令和 2(2020)年現在、全国の看護学系修士課程定員数は 2,772 名(186 校)であるのに対し、四国地方の看護系大学院は国立 4 校、公立 3 校、私立 2 校(人間環境大学は愛知県キャンパスのため除外)であり、総定員 112 名(9 校)である(図 6)。四国地方の看護系大学の学部は 11 校が設置され、総入学定員は 805 名であることから、学士課程に対する博士前期課程の入学定員数比率は 14%である。看護系大学院博士後期課程を開設している大学は、徳島大学、徳島文理大学、高知県立大学、香川県立保健医療大学、愛媛大学の 5 校で、総定員は 18 名にとどまっている。したがって、博士後期課程定員数の前期課程定員数に対する比率は、全国が 651 名(105 校)の 24%であるのに対し、四国地方は 18 名(四国の博士後期課程設置校 5 校の総定数)の 16%と全国平均に達していない(図 7)。本学が新たに博士後期課程を開設した場合、四国地方は 18%に増加する。

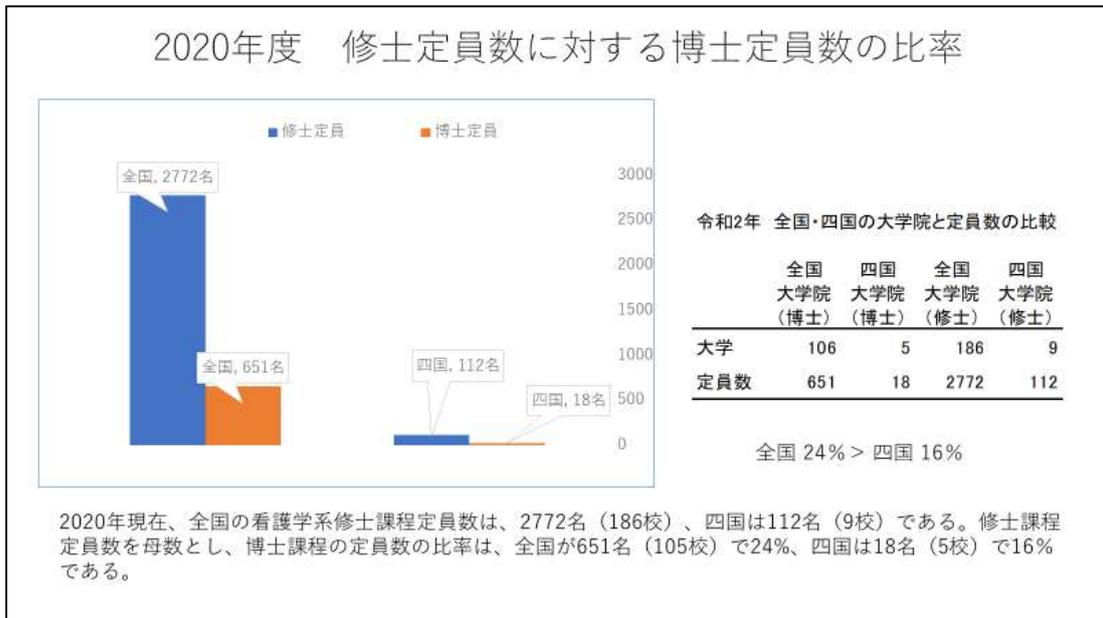
図6 四国地区看護系大学一覧

四国地区看護系大学一覧

		大学名	修士・博士前期		博士後期	
			学位	定員	学位	定員
徳島県	国立	徳島大学	○ 保健学、看護学	27	○ 保健学	5
	私立	四国大学	○ 看護学	8		
	私立	徳島文理大学	○ 看護学	7	○ 看護学	3
香川県	国立	香川大学	○ 看護学	16		
	公立	香川県立保健医療大学	○ 看護学	5	○ 看護学	2
愛媛県	国立	愛媛大学	○ 看護学	12	○ 看護学	2
	公立	愛媛県立技術医療大学	○ 看護学	5		
	私立	聖カタリナ大学				
	私立	人間環境大学※	○ 看護学、助産学	(20)	○ 看護学、助産学	(8)
高知県	国立	高知大学	○ 看護学	12		
	公立	高知県立大学	○ 看護学	20	○ 看護学	6

※ 松山看護学部看護学科、博士前期・後期は愛知県キャンパス

図7 修士定員数に対する博士定員数の比率



3)本修士課程において社会人入学が大半を占めている根拠

修士課程入学者の受験時の所属先別人数(資料 4)に示した通り、本修士課程修了者の90%が社会人であり、就業を継続しながら進学できる県内の看護学専攻博士課程の設置に対するニーズは高い。